

業績ハイライト

Kirayaka Bank

主要な経営指標

■ 連結

	(単位：百万円)	
	平成21年9月期	平成22年9月期
連結経常収益	13,438	13,612
連結経常利益	746	916
連結中間純利益	770	877
連結純資産額	48,921	50,967
連結総資産額	1,198,125	1,242,643
1株当たり純資産額	221.90円	236.38円
1株当たり中間純利益	5.93円	5.42円
潜在株式調整後1株当たり中間純利益	5.87円	2.25円
連結自己資本比率(国内基準)	10.44%	10.39%

■ 単体

	(単位：百万円)	
	平成21年9月期	平成22年9月期
経常収益	12,973	13,214
経常利益	528	851
中間純利益	593	825

- (注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 2. 「1株当たり純資産額」、「1株当たり中間純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり中間純利益」の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。
 3. 連結自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく金融庁告示に定められた算式に基づき算出しております。

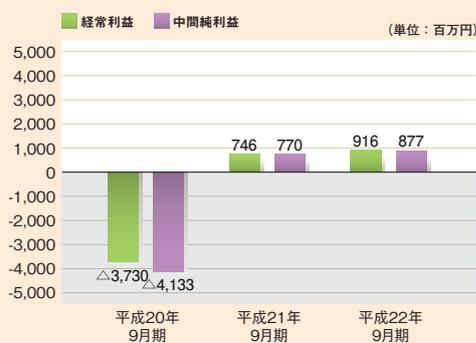
営業の概況

■ 損益の状況(連結・単体)

当中間会計期間の経常収益は、資金需要低迷による貸出金のボリューム減少や貸出利回りの低下により貸出金利息が減少しましたが、有価証券の売却益や利息配当などの有価証券関係利益が増加した等の理由から、前年比2億41百万円増加の132億14百万円となりました。一方、経常費用は、預金の期中平均残高が304億4百万円増加しましたが、預金利回りの低下による資金調達費用の減少と物件費の減少から前年比81百万円減少の123億63百万円となりました。その結果、経常利益は8億51百万円、中間純利益は8億25百万円となりました。

また、連結の損益につきましては、連結経常収益は、単体の損益と同様の理由により、前年同期比1億74百万円増加の136億12百万円、連結経常費用は、貸倒引当金の増加等により前年同期比3百万円増加の126億95百万円となりました。その結果、連結経常利益は9億16百万円、連結中間純利益は8億77百万円となりました。

経常利益・中間純利益の状況(連結)



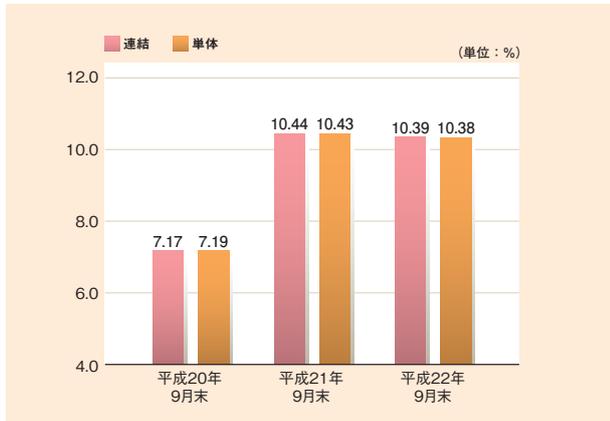
経常利益・中間純利益の状況(単体)



業績ハイライト

Kirayaka Bank

自己資本比率の状況(連結・単体)



単体自己資本比率は、本中間決算期における利益の積み上げを行いました。一般債券等の運用有価証券増加によるリスクアセット増加から、前年比0.05%微減の10.38% (Tier 1 比率7.57%) となりました。

コア業務純益の状況(単体)



銀行の本業部分の収益を表すコア業務純益につきましては、資金需要低迷による貸出金のボリューム減少や貸出金利回りの低下により貸出金利息が減少しましたが、有価証券運用益の増加、預金利回りの低下による調達費用の減少や物件費の削減により、前年並みの22億47百万円となりました。

【用語解説】

■ コア業務純益

「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益の事を指します。

■ 経常利益

「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。

■ 当期純利益

「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

※連結自己資本比率(国内基準)及び単体自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく金融庁告示に定められた算式に基づき算出しております。

業績ハイライト (単体)

Kirayaka Bank

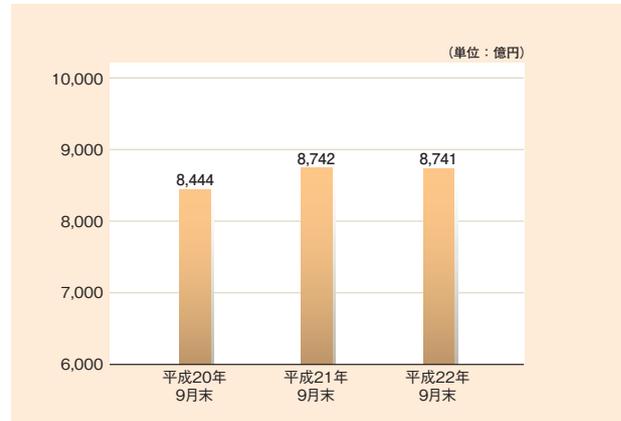
預金・預かり資産の状況



預金残高につきましては、「山形応援シリーズ」を中心とした企画ものの個人定期預金の残高増加が大きく寄与したこと等により、前年同期比471億円増加の1兆1,560億円となりました。

一方、預り資産残高は、投資信託については購入先のアフターフォローを通じ、お客さまの立場に立った提案を行ったこと、年金保険については定額個人年金保険の商品性が顧客に受け入れられたことなどから、販売額が増加し、前年同期比、15億30百万円増加の1,628億円となりました。

貸出金の状況



貸出金残高につきましては、輸出や生産の鈍化に、円高が追い打ちをかけていることで取引先企業のマインドが悪化し、手元資金の範囲内で設備投資をしているなど、新規の貸出需要につながりにくいことが影響し、前年比0.8億円の減少の8,741億円となりました。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。※預金には譲渡性預金を含みません。
※決算の詳細につきましては、きらやか銀行ホームページ(<http://www.kirayaka.co.jp/>)よりご覧いただけます。